

# 船橋市

<p>チーム名 【高根台住宅自治会 見守り活動本部】</p>
<p>タイトル 【認知症の方や介護者が地域の中でつながり安心した生活を続けるために】</p>

## 1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
650,768 人	155,059 人	23.8%	85.62K m <sup>2</sup>
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。また中核市では1番の人口を誇る都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年11月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	・見守り活動などその他必要に応じて
活動頻度	・週に1回ほど見守り活動 ・適宜メンバーで集まる ・その他必要に応じて活動
参加費	なし
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（なし） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター（地域包括支援センター） リーダー（住民サポーター） 住民サポーター 職域サポーター（在宅介護支援センター）
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）

チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和6年5月に安心見守り隊代表者の方へ、チームオレンジコーディネーターよりチームオレンジについて説明し、あらためて安心見守り隊の活動内容についても確認。  
令和6年7月に安心見守り隊メンバーの方々にチームオレンジの説明。  
メンバーの中で認知症サポーター養成講座を受けていない方がいるため、認知症サポーター養成講座も実施した。  
その後団体の理解を経て、令和6年9月にステップアップ講座を実施。  
令和6年11月より活動開始となった。

### 4 活動内容

高根台住宅の中で、訪問や電話での認知症の当事者、介護者が地域の中でつながり安心して生活が続けていけるよう見守り活動をしている。  
適宜見守り活動メンバーで集まり、見守り活動の中で気づいたことの共有をし、必要な支援につなぐよう助け合い、悩みを受け止めながら、認知症の当事者や介護者が幅広く地域とつながれることを心掛け運営している。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

高齢者世帯の見守りを20年継続して続けている。見守り隊代表の方にチームオレンジについて説明をした後に、見守り隊活動メンバーの方々にチームオレンジについての説明と共に認知症サポーター養成講座を実施している。その後、見守り隊活動メンバーの方々にステップアップ講座を実施し、チームオレンジとしての活動を始めたところである。もともとの意欲的な活動をこわさずに負担なくチームオレンジとしての活動が行えるように説明を行っている。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

#### < 講座内容 >

・「気づき」「受け止め」「つなぎ」をポイントとした内容（ロールプレイを含む約180分）

・講師はチームオレンジコーディネーター（地域包括支援センター職員）

#### < 開催状況 >

・受講者の意向に合わせ、R6.9.6、R6.9.13の2回に分けて開催した。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

チームオレンジとしての活動の中で活発な意見交換があり、地域の中で認知症について普及されてきており意識の高さが感じられるようになっている。チームオレンジメンバーに介護者から相談が入り、介護者の思いに気づき、介護者の気持ちを受け止めて、支援や対応について専門職へつなく活動ができている。

### <課題>

活動の継続ができるよう、若い世代の活動メンバーが参加できるような体制を構築していきたいと考えている。

## 8 チームのアピールポイント

高根台住宅 150 世帯の高齢者世帯の見守りをして 20 年になる。  
見守り活動メンバーは 10 名～15 名。適宜見守り活動メンバーで集まり話し合う。訪問や電話の見守りを行なうことで、住み慣れた地域で日々つながりを持ち、認知症の当事者、介護者、支援者、地域の人が安心して生活できる活動を目指している。

## 9 今後の活動について

チームオレンジメンバーから認知症の方や介護者と顔を合わせることや、集える場所があれば活動の広がりが持てるのではないかとの意見があり、認知症カフェの立ち上げについて検討中である。

# 船橋市

チーム名 【 チーム ポピンズ 】
タイトル 【 出会いを大切にし、人と繋がるあたたかい地域の構築 】

## 1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
650,768 人	155,059 人	23.8%	85.62K m <sup>2</sup>
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。また中核市では1番の人口を誇る都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年12月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ 介護事業所 ）
活動内容	まちかど案内所、ポピンズカフェ、地域交流会、地域密着運営推進会議、その他必要に応じて活動
活動頻度	まちかど案内所（常時） ポピンズカフェ（不定期） 地域交流会（不定期） 地域密着運営推進会議（年2回）
参加費	ポピンズカフェ 1,000 円、地域交流会 2,000 円、その他無
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター（地域包括支援センター） リーダー（職域サポーター） 住民サポーター 職域サポーター（介護支援専門員、医師、看護師、通所介護職員、訪問看護職員、訪問介護職員、訪問リハビリ職員、歯科衛生士、福祉用具専門相談員） 認知症の人本人 認知症の人の家族
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）

<p>チームオレンジの類型 1</p>	<p>第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について 2</p>	<p>3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

ポピンズ京葉ではデイサービスを拠点としてH28年からポピンズカフェ（認知症カフェ）をOPENし、デイサービスと居宅介護支援の利用者を中心に認知症の方、そのご家族や地域住民、地域の専門職の方々が参加し、住み慣れた地域で自分らしく元気に暮らし続けられるよう集いの場づくりをしてきた。在宅生活を継続するために何が必要か、この価値を共有するメンバーが集い、楽しむ場となり、地域交流を積極的に行っていた。ポピンズが目指している支え合える地域づくりの中で、同じ価値を共有できるチームは、まさにチームオレンジの目指すところであり、コーディネーターである地域包括支援センター職員がチームオレンジについて説明をして結成となった。R6年10月11月に2回に分けてステップアップ講座を行い、12月にチームポピンズが立ち上がり活動開始となった。

### 4 活動内容

地域交流会やポピンズカフェ（認知症カフェ）にて、手作りにこだわった料理や季節のランチの提供をしている。参加者全員が居心地良く楽しい時間を過ごせるよう、プログラム内容の企画から会場のセッティング、食事の提供では調理から盛り付け、片付けまでチームメンバー（地域住民や専門職ボランティア）で行っている。認知症の方やそのご家族、一人暮らしの方が参加でき、地域住民、地域の介護・医療関係者等と情報交換して交流を深め、毎回テーマを決め学びの機会を作っている。

チームポピンズの拠点がデイサービスにあり、まちかど案内所も設置しているので、いつでも相談できる体制を整えている。出会いを大切にしたい支援活動を行い、あたたかく居心地の良い地域の拠り所となっている。



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

チームポピングのメンバーは日頃より介護事業を通して信頼関係が構築されているため、協力連携体制ができている。日頃から価値の共有ができる地域の方々が集うので、参加する方が、自ら自分には何ができるかと考えて主体的にボランティアとして集まっている。

地域交流会やポピングカフェでは認知症の方が役割を持って楽しめる企画を通して、あたたかく居心地の良い雰囲気を心がけている。ご家族の方同士の交流もあり、同じ立場で思いを共有できる工夫をしている。

ご家族の方が、自作のエッグアートを提供して下さり、じゃんけん大会での争奪戦で盛り上がっている。また、読み聞かせや歌の披露など、参加者が主体的に関わっている。



地域交流会や認知症カフェの開催では、積極的に声をかけ、気軽に困りごと等が話せるよう心がけている。チームポピング活動は地域住民のほか、多職種の連携があるためその場で共に考えることができ安心して繋がっている。住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるために参加、交流の機会を継続し、気づき受け止めができるようアンテナを張っている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

認知症施策推進会議チームオレンジ作業部会で資料を作成済。地域の実情に合わせ資料をアレンジして2回に分けて講座を実施した。

R6.10.9 ステップアップ講座パート 実施 (ロールプレイ含む 90分)

- ・船橋市の現状とチームオレンジについて
- ・ステップアップ講座について
- ・認知症サポーター養成講座の振り返り
- ・「気づき」について

R6.11.19 ステップアップ講座パート 実施 (90分)

- ・「受け止め」、「つなぎ」について
- ・チームオレンジとは
- ・今後について

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

職域を超えて勉強してきたことで、認知症になっても在宅生活を継続するためにチームで連携できる体制が構築されている。気づき、受け止め、適切な機関に繋ぐことのできるような活動ができた。

いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるために、地域交流会、認知症カフェを通じ情報交換や認知症の方の理解を深める活動が行えた。活動には介護や医療関係者等の専門家も参加しており、共に考えることができ連携が深まった。認知症の人、その家族の気持ちに寄り添うことができた。参加された方からは、「また会える?」「気持ちが優し

くなるものをいただいた。どんな高価なものよりも大切なものを感じた。」「前は死んでもいいと思っていたけど、まだ死ななくて良かった。こんな美味しい料理を食べられるなら、また生きようと思った。」等の感想をいただいている。



#### < 課題 >

拠点としているデイサービスでは会場としては狭く、参加人数が限られている。地域の繋がりが必要な方々により広く声をかけていく必要性を感じている。また、認知症の方が多くなっており、参加の連絡をいただいても忘れてしまい参加できないことがあったり、自分の足で来ることにも限界がある場面もあつたりと、より多くの方に参加していただけるよう検討していきたい。

### 8 チームのアピールポイント

- ・地域交流会、認知症カフェ（ポピンズカフェ）開催
- ・手作りにこだわった料理の提供。
- ・テーマを決めて学びを深めている。
- ・困りごとに対し、専門職へその場で相談でき解決に繋がられる。
- ・多様な方の参加があるため毎回新鮮で楽しく開催できる。



### 9 今後の活動について

地域の中で、まだまだ孤立感を抱えて外出できない方がいるので、地域交流会や認知症カフェをこまめに開催し繋がっていける環境作りをしていきたい。認知症カフェは、コロナ禍を経て定期開催を中止し不定期での開催としていたため、定期開催の再開を検討している。

# 船橋市

<p>チーム名 【西船橋グリーンハイツ 助け合いの会】</p>
<p>タイトル 【「いざという時」に助け合えて、長く住み続けられる地域を目指して】</p>

## 1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
650,768 人	155,059 人	23.8%	85.62K m <sup>2</sup>
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。また中核市では1番の人口を誇る都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年1月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	立ち上げ当初の主な活動はゴミ出し、電球交換。会員の希望により、草取り、病院の付添い等、有償の支援内容を拡大。一人暮らしの高齢者で見守り希望の方に、電話による見守り活動は無償で実施。
活動頻度	定例会：マンション内集会所で月1回開催。主に前月の活動報告、支援分担表の作成 懇親会：年1回 周知：居住者対象で、各棟の1階掲示板33か所に助け合いポスターを貼付。ポスターの会員の連絡先へ、居住者が支援を依頼する。 自治会の下部組織として助け合いの会がある
参加費	なし
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（なし） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター（地域包括支援センター） リーダー（住民サポーター） 住民サポーター 職域サポーター

チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

西船橋グリーンハイツは322戸のエレベーターの無い5階建てマンション。助け合いの会以外にも、おしゃべりサロン、老人会、公園の清掃活動、ラジオ体操、卓球、シルバーリハビリ体操など、盛んに地域活動を行っている。高齢化が進み、介護相談が増える中で、個別事例を通じて、助け合いの会が認知症の人を支える体制になっていることに着目し、チーム立ち上げの働きかけを行うこととした。R6.11月に会の主要メンバーであるオレンジサポーター2名とコーディネーター、職域サポーターが打合せを行い、居住者の認知症の支援状況やニーズ、会員の状況などの情報を得て、地域で無理のない取り組みを進めることとなる。R6.12月に定例会に参加し、会員全体へチームオレンジの説明を行う。「顔見知りの方が最近見えなくなると、マンション内で育てている草花を持って訪問する」「気になる高齢者に声をかけ続けていると、手すりを付けたい、との希望があり、介護保険申請に結び付けた」「エレベーターが無いので、認知症になったり入院したりするとすぐに施設入所してしまうのは勿体ないし寂しい」と意見が聞かれる。既に「気づき・受け止め・つなぐ」活動が展開されておりチームオレンジの共通理解を図る。チーム立ち上げに関して不安はありながらも、会員同士が「自分たちの活動そのものがチームオレンジであることが分かったので、助け合い活動の形は変えずに認知症の勉強をやってみよう」との合意形成が図られ、R7.1月成立に至る。

### 4 活動内容

- ・平成30年、当時の生活支援コーディネーターと民生委員が自助組織である助け合いの会を立ち上げる。居住者共通のちょっとした困りごとを、居住者同士で支え合う「助け合い活動」を行うことを目的としている。住み慣れた地域で、いざという時にお互いに助け合いながら生活できるよう、活動を継続してきた。
- ・R7年度チームオレンジ活動は「10年前にマンションのサロンでサポーター講座を受けたが、改めて振り返りたい」「マンション内のサークルと連携して顔の見える関係づくりをしたい」との声が聞かれる。サロンや老人会と共催し認知症サポーター養成講座を開催する。
- ・認サポ受講生にステップアップ講座を開催し、認知症の知識や対応技術を深めながら、認知症の人と家族の身近な困りごとの支援活動に活かしてもらう。



“認知症”を  
正しく 知ろう！

西船橋グリーンハイツに長くみんなと一緒に住み続けたいと  
思いませんか？  
認知症のこと、本人やご家族への接し方を知ってみませんか

開催日：令和7年6月16日（月） 10：00～11：30  
場所：西船橋グリーンハイツ グリーンホール  
講師：ニチイケアセンター 西船橋（グループホーム）

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

助け合いの会は、あらかじめ設定された活動項目に沿って、利用者からの依頼に基づいて活動している、その継続可否は利用者本人かその家族の意向に沿って進めている、チームオレンジの活動は認知症の人に対する見守り活動であり、人間の尊厳にかかわるきわめて難しい問題を含んでいる、との懸念も聞かれていた。活動主旨にかなうものである限りは対応可能だが、もし不可能な場合は引き受けできない、認知症という情報を誰にどのような方法で気づき受け止めつなぐのか、とても難しい問題、と身構えられることもあった。あくまでも今までの活動範囲や活動内容はそのまま継続した形で、何かを変えるつもりは無く、会員の活動したい内容や利用者の困りごとに着目していくことで、認知症の人の困りごとに接した際に、チームとして何ができるのかを考えるきっかけにしよう、と説明を繰り返し、合意形成を図る。

チーム活動を行う際、地域の介護事業所の参加協力を依頼し、地域に開かれた拠点として資源同士の効果的活用と連携強化を図る。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

認知症施策推進会議チームオレンジ作業部会で資料を作成。地域の実情に合わせて資料をアレンジし、マンション内のサロンと共催で講座開催した。

- ・船橋市の現状とチームオレンジについて
- ・ステップアップ講座について
- ・認知症サポーター養成講座の振り返り
- ・「気づき、受け止め、つなぎ」をポイントとした内容
- ・チームオレンジとは (ロールプレイを含む 180分)

会員より、認知症の勉強はマンション居住者の困りごととして、「明日は我が身」の思いで関心の高さがうかがえる内容であった、との感想を得られた。共催という形で団体の垣根を越えた講座を開催することができた。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

・認知症の知識を深め、勉強を重ねたことで、認知症を意識して会の活動を進めることができた。助け合い活動をする中で、認知症の早期発見と相談先としてコーディネーターや職域サポーターにつなげることができ「気づき・受け止め・つなぎ」のポイントを理解した活動が展開できている。

・今後もマンション居住者の顔の見える関係づくりや、広くつながれるネットワークの

機会を確保し、認知症になってもサークルや会の活動に触れ合える機会を作りたい、との声が会員から聞かれている。チームを立ち上げたことで、助け合い活動が新たなフェーズに入り、チーム活動の新しい形を会員同士で作り上げることができている。

< 課題 >

- ・マンションの地域活動は、立ち上げ当初盛んに活動されていても、経過がたつにつれて、新陳代謝が図られない、サークルを立ち上げて、参加者の高齢化・認知症により、参加者の減少や固定化、サークルの規模縮小という課題が、どのサークルにも共通した課題となっている。
- ・本人参加の仕組みづくりが整っておらず、現状では認知症の人の社会参加の機会が無い。

## 8 チームのアピールポイント

- ・今後もチーム活動を通してより良く暮らすための環境づくりに役立てる。住み慣れた地域で安心した生活が送られるよう、ちょっとした手助けが必要な時に、会員同士が有償で助け合える活動を行い、形式張らずにできる範囲で「ちょっと小耳にはさんだ情報の交換」や「通りすがりの道でちょっとおかしいと感じたら、立ち止まって声をかけてみる」などの活動を積み重ねていく。
- ・今後の展開は、今まで会として実践してきた本来の活動を大切にしながら、関係機関や他団体との横のつながりや連携強化を図り、認知症の理解を深め、見守り声掛けを通して、認知症に気づくことができ、気になる居住者やその家族への支援を円滑にできる仕組みづくりを促進していく。
- ・地域ケア会議では、時間の経過とともに「この地区にはチームオレンジがある」という認識が浸透している。今後はチームオレンジとケアマネジャーや民生委員、介護サービス事業所、インフォーマルサービス、構成員の所属団体など、地域資源同士の効果的な連携強化や協働体制を充実させる。

## 9 今後の活動について

講座や研修会といった堅苦しい雰囲気ではなく、広く「認知症を知ろう」といった勉強会等をマンション集会所で気軽に開催し、居住者の顔の見える関係づくりを活性化させ、広くつながれる協働の機会、認知症になっても地域活動へ本人参加ができるような体制の在り方を検討しながら、持続可能な助け合い活動を展開する。

長期目標：認知症になっても「いざという時」に助け合えて、マンションで長く住み続けられることを目指す

短期目標：認知症の理解を深め、会員のスキルアップを図る

みまもり電話の普及啓発を進め、認知症の理解をマンション全体に深める

# 船橋市

チーム名 【もったいないカフェ】
タイトル 【あなたの「したい」を応援する場所～参加しないのはもったいない～】

## 1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
650,768 人	155,059 人	23.8%	85.62K m <sup>2</sup>
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。また中核市では1番の人口を誇る都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年4月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	月1回のオレンジカフェ、出張フリーマーケット等
活動頻度	オレンジカフェ：月1回（第4金曜日 14時～16時） その他必要に応じて
参加費	300円（オレンジカフェ） その他活動に応じて実費発生
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター（地域包括支援センター） チームリーダー 住民サポーター 職域サポーター（在宅介護支援センター） 認知症の人本人、認知症の人の家族
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

前身である「もったいない亭オレンジカフェ」は令和4年5月に住民主体のオレンジカフェとしてリーダー宅にて開設。開設以降、同カフェは認知症の人やその家族などを含めた地域の交流の場となっており、チームオレンジのような活動になっていることから既存拠点活用タイプとして令和5年5月よりチームオレンジとして活動開始。

リーダーの市内転居に伴い、令和7年4月より現在の「もったいないカフェ」にチーム名を変え、町会館等にて活動を継続している。

### 4 活動内容

月1回町会館にて、「もったいないカフェ」としてオレンジカフェを開催。

カフェでは、認知症があってもなくても皆で楽しく過ごせる居場所を目指し、参加者それぞれが得意なこと、好きなことを活かせる場を提供している。

活動の一環としてヨガや脳トレなどのレクリエーションやコーヒーをおいしく淹れて飲む会など様々なイベントも企画している。

町会館でのオレンジカフェの開催のほか、年に2~3回、皆でアンデルセン公園を散策したり、不定期での外食や出張フリーマーケットなどの外出も行い、参加する方が生き生きと活動・交流できる機会を増やしている。



### 5 活動を進めていくうえで失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

既存のオレンジカフェスタッフを中心としてステップアップ講座を実施し、修了者をコアメンバーとして活動を進めている。オレンジカフェの開催もチームオレンジ活動の一環とし、その他の各種活動についてもそれぞれが無理のない範囲で参加して継続していくことを意識している。広報はチラシの他、メンバーによる普段の声掛けやつながりの中でお誘いをしている。(オレンジカフェの広報については市のホームページや市で作成したオレンジカフェ一覧表を各所に配布し周知している)

実際の活動においては他のメンバー同士の関係性などを考慮し、皆が楽しく気持ちよく過ごせるようコアメンバーを中心に場の空気や接し方に配慮している(あるメンバーに対しては元介護職のコアメンバーが常に隣で様子を見るなどそれぞれの方に担当をつけて対応することもある)

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和5年4月28日、令和5年5月26日に2部構成にて実施。場所はオレンジカフェの場である代表者の自宅、講師は地域包括支援センターに所属するチームオレンジコーディネーターが担当。

まず市の現状やチームオレンジについて、認知症サポーター養成講座の振り返りを行い、認知症の人に「気づき」、認知症の人を「受け止め」、認知症の人や家族を必要な支援に「つなぐ」方法についての講座を計約180分実施した。の「受け止め」の部分では実際の対応方法などを学ぶロールプレイを実施した。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

地域で心配な人に対し、最初は拒否していたがあきらめずに継続して声かけを行い、オレンジカフェへの参加につながった。閉じこもり気味の方も生きがいにつながり、積極的に活動に参加されるようになった。本人に安心感が生まれ、最終的には喜んでくれたため、社会的孤立を防ぐためにも継続した声かけの必要性を実感した。

### <課題>

このような体制を今後も続けていけるかどうか。若い人にも入ってほしい。

## 8 チームのアピールポイント

コアメンバーには元介護職が多いので「気づき」が多い。季節ごとに様々なイベントも考えており、とにかく皆が楽しめる心地よい場を目指している。またメンバーや地域の人の「したいこと」をちょっとした手助けで実現できるよう活動している。

## 9 今後の活動について

もっと多くの人に知っていただき、活動に参加してもらいたいと考えている。近隣の気になる人にもっと声をかけるなどコアメンバーの協力体制を無理のない範囲で強化していきたい。本人のできることは生きがいや役割につながる。やりたくても体力的に難しくなってくることもあるが、これからも本人のやりたいことを一緒に実現していきたい。

# 船橋市

チーム名 【 チーム 塚田のオレンジャー 】
タイトル 【 塚田地区を見守り・支え合うンジャ ！ 】

## 1 自治体情報（令和7年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
650,768 人	155,059 人	23.8%	85.62K m <sup>2</sup>
船橋市は こんなところ！	船橋市は千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近く発達した交通網を持ちます。豊かな自然もあり非常に恵まれた立地条件を備えたまちです。また中核市では1番の人口を誇る都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年6月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ 職能団体 ）
活動内容	様々な地域活動への参加・協力
活動頻度	地域活動開催時
参加費	無
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ なし ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	コーディネーター（地域包括支援センター） リーダー（職域サポーター） 職域サポーター（居宅介護支援事業所、通所介護事業所、訪問介護事業所、認知症対応型共同生活介護、医療機関、民間企業相談員 等）
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

塚田の会(塚田地区の全介護事業所の集まり)会員より、認知症への理解を深めたいと希望があり、令和7年1月『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』『認知症とともに生きる希望宣言』『認知症で日本をつなぐシンポジウム2024』を基に塚田の会で勉強会を開催。5月には認知症ステップアップ講座を開催し、塚田の会の強みである“学びを行動につなげる”仕組みを活かせないか話し合いが行われた。そこでチームオレンジを結成し、地域活動に様々な専門職が参加することで、地域や住民との顔の見える関係を構築し、お互いに刺激し合える環境の創出を目指すこととなった。

《塚田の会》



《研修会の様子》



### 4 活動内容

塚田地区で行われている、様々な活動(認知症高齢者徘徊模擬訓練・認知症サポーター養成講座・自治会や老人会・ミニデイやサロンなどで行われる講話活動・介護予防教室・オレンジカフェ・畑での作業 など)の参加や協力を行う。

#### 【令和7年度 チーム塚田のオレンジャー主な地域活動実績】

- 塚田地区社協ミニデイ旭 『うめぼし体操・セラバンド』ふなばし翔裕園
- 塚田地区社協ミニデイ前貝塚 『笑いヨガ・脳トレ』ファミリア塚田
- 塚田地区社協ミニデイ塚田 『健康体操・口腔体操』イリーゼ船橋塚田
- 長太郎自治会 『介護保険について・シナプソロジー』ツクイ新船橋
- 山手2丁目婦人会・寿会 『介護保険についての講話』ケアプラン一陽
- ちとせクラブ 『転倒防止体操・昭和クイズ』ケアプラン一陽
- 塚田地区社協ミニデイ塚田 『認知症予防体操』船橋あさひ苑
- 塚田地区社協ふれあいサロン 『ACPについて』ウェルフォース訪問看護  
ステーション船橋
- 塚田地区社協ミニデイ前貝塚 『ずんどこ体操・手話体操・クリスマスリース製作』  
セントケア看護小規模多機能型居宅介護  
地域で見守り声掛け訓練 in イオンモール船橋(認知症高齢者徘徊模擬訓練)  
和花ケアマネジメント・ファミリアケアプランセンター・船橋あさひ苑・  
東武塚田クリニック在宅ケアセンター・ケアプラン一陽・船橋総合病院・  
グループホームつどい新船橋・行田団地 UR コミュニティ  
船橋市南部在宅療養研修会 市民公開講座 『脳トレ健康体操』 登壇予定  
グループホームの入居者より『囲碁将棋がやりたいが相手がいない』と相談がある。  
認知症本人の困り事として、チームオレンジメンバーやメンバーが支援しているケース

の家族が囲碁将棋の相手として活動に参加し本人の願いを叶える予定である。

### 《ミニデイ・自治会町会活動の様子》



### 《地域で見守り声掛け訓練 in イオンモール船橋の様子》



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

### 《工夫したこと》

- ・自主的な活動を促すため、活動参加は手上げ方式をとった。
- ・チームオレンジと地域住民の顔の見える関係を構築するため、地域活動にはその地区にある事業所に参加の声掛けをした。
- ・介護事業所の本来の業務に支障が出ないように、参加内容や回数を設定した。
- ・参加活動報告をチームオレンジ内で定期的に行うと共に、地域ケア会議等でも報告し活動の意義を地域で共有している。
- ・チームオレンジの活動を身近に感じるとともに、チームオレンジの存在を周知しやすいよう、有志でチームキャラクターを作成した。



チームオレンジャー

ロゴ

“つかさん”



## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

日時：令和7年5月15日 所要時間：2時間

参加者：塚田の会所属の専門職 25名

講師：板倉病院 心療内科 認知症サポート医 赤川医師(動画出演)  
船橋市塚田地域包括支援センター 認知症地域支援推進員3名

目的：認知症に関する知識を深める。さらに認知症本人が暮らす家庭や社会・地域を含めた視点を学ぶ。

内容：当センターと塚田の会、上記医師とで共同で作成した動画『認知症～これって病気なの？』を視聴し、認知症に関する専門的な知識を深めた。さらに本人のみならず家族への対応や支援者として心がけるべきことなどを学んだ。その後はグループワークを行い、“尊厳ある暮らしを塚田地区で続けるには”をテーマに意見交換し、参加者が地域に目を向け、地域での役割を意識する機会となった。

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

### 地域住民に対しての効果

- ・地域で開設している介護保険事業所の職員が出張講話や健康体操を行うことで住民とのつながりができ、身近に相談できる場所や専門職がいることを周知できた。
- ・様々な専門職が活動に携わることで、多角的な視点から福祉や健康にまつわる知識や活動を住民に提供することができた。
- ・介護保険の利用に至る前から住民の意識が高まり、介護予防や認知症予防に積極的に取り組むようになった。

### チーム塚田のオレンジャーへの効果

- ・地域から求められる存在となり、やりがいの創出や意欲の向上につながった。
- ・介護保険外の様々な活動に参加することで、インフォーマルな地域資源について身をもって知ることができ、自身が担当している認知症本人やその家族に知識や情報を提供したり、直接参加を促すことができた。
- ・メンバーはボランティアではなく社会地域貢献活動として業務の一環で参加することで、事業所としても地域活動に対し理解し参加持続可能な体制を整備できた。

## 8 チームのアピールポイント

拠点を持たない活動が中心。

チームの構成員それぞれが自分の得意分野を活かせる活動を行う。

専門職中心のチームであるため、認知症の方やその家族の方への周知も行きやすい。

## 9 今後の活動について

- ・活動領域を広げるため地域住民や団体へ声掛けやチームオレンジの周知活動を行う。
- ・地域ケア会議などと共有し、地域全体でも活動内容を検討する。
- ・認知症本人やその家族の困りごとや要望等を積極的に聞き活動につなげる。
- ・専門職中心のメンバーのため、認知症サポーター養成講座の修了者や塚田サポーター(塚田包括登録ボランティア)等にもメンバー登録への声掛けを行い、繋がりの強化を図り活動をより豊かなものにする。

# 木更津市

チーム名 【チームオレンジ・カフェなみおか】
タイトル 【～認知症になっても共に暮らしていける地域を目指して～】

## 1 自治体情報（令和7年11月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,777 人	37,808 人	27.7%	138.89K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	2016年4月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催、出前カフェ、訪問の実施
活動頻度	カフェは月1回。訪問は適宜。
参加費	100円
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ 地区社協 ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	・住民サポーター ・ボランティアスタッフ ・地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年3月、地域の関係機関に「認知症カフェ」である「オレンジカフェなみおか」設立の趣旨説明をして協力をお願いした。また、地域住民へは、「オレンジカフェなみおか」がオープンすることを、「波岡公民館だより」で全世帯に広報した。

2016年4月、「オレンジカフェなみおか」が誕生した。

2023年2月、「オレンジカフェなみおか」の取り組みが「チームオレンジ」の活動であるということから木更津市第1号となる「チームオレンジ登録証」が授与された。そこで、「チームオレンジ・カフェなみおか」と名称を変更した。

### 4 活動内容



左上から、スティールパン、ポスター作り、ボッチャ、折り紙風景

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

予測していなかったこと、例えば、利用者が椅子から立ち上がる時、転倒して床に頭を打ったこと、コロナに感染して咳き込んでいる利用者が参加しようとしたこと、などがあったが、南部地域包括支援センターの看護師と相談して対応した。ボランティア保険にも加入している。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思いを知る
- 第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて
- 第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）
- 第4回：若年性認知症とその支援、認知症カフェ実習の意見交換
- 第5回：今後の活動や研修について、チームオレンジの話、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・利用者より「オレンジカフェなみおかをつくってくれてありがとう」と声をかけられスタッフ一同やりがいを感じた。
- ・利用者は、悩みごとを抱え込まずにスタッフに気軽に相談するようになった。
- ・利用やスタッフの間で連帯感が生まれるようになった。スタッフは利用者との接し方に慣れて利用者の中に積極的に入っていくようになった。
- ・スタッフは、認知症の知識を共有するようになった。
- ・スタッフは、木更津市第1号の「チームオレンジ登録証」が授与されて、活動に誇りを感じるようになった。
- ・地区社協の構成団体として活動資金(年3万円)を受けられるようになった。

### <課題>

- ・アウトリーチ的な訪問のケースがなかなか増えていかない、広報活動に注力したい。

## 8 チームのアピールポイント

- ・波岡公民館地区まちづくり協議会と連携して認知症の学習会を開催している。
- ・オレンジカフェ終了時や訪問後は必ず反省会を開催して振り返りを行い、次の取り組みに反映させている。
- ・南部地域包括支援センターとボランティアが協働して運営している。

## 9 今後の活動について

- ・ボランティアスタッフが高齢化しているので若手の育成が急務である。
- ・チームオレンジの紹介と利用を、「波岡公民館だより」「波岡東地区民生委員会」「大久保団地自治連合会」「一人暮らしのバスハイク」などで文章を添えて呼びかけていきたい。
- ・高齢者が孤立を防ぎ、気軽な話し相手となれるように公報活動に力を注いでいきたい。

# 木更津市

チーム名 【 チームオレンジ・カフェはたざわ 】
タイトル 【 いつまでもみんな元気で、笑顔で過ごしたい 】

## 1 自治体情報（令和7年11月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,777 人	37,808 人	27.7%	138.89K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年7月10日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催
活動頻度	月1回
参加費	100円 （スタッフは年会費1000円を寄付）
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（寄付金） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（地区社会福祉協議会からの補助金）
メンバー構成	・認知症の人とその家族 ・地域住民 ・ボランティア（ステップアップ終了者含む） ・地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

この地域は認知症カフェが無く、住民サポーターより新しく立ち上げたいニーズはあったが場所がなく難航していた。そんな時、包括を運営する法人が移転新設され「地域交流スペース」を利用できる事となり拠点に決まった。リーダーが同志を集め、それぞれが所属する地域、サークルや老人会で声掛けを行い15名程のスタッフが集まった。打ち合わせや話し合いを重ね、広報誌などで周知活動も行った。年間の役割分担表をみんなで協力しながら作成した。楽しい時間を過ごせるよう心掛けている。現在3周年に向けて頑張っている。

### 4 活動内容



誰でも集える住民同士の交流の場の提供を心掛けています。

- ・地域包括支援センター職員による講話
- ・企業による講演会、健康測定会
- ・認知症メモリーウォーク(フェス)への参加

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

2年目に突入した矢先、スタッフが半減してしまい対応方法を検討した結果、知人を通して紹介が2名あった。イベントの内容については事前に検討する体制も構築されている、別日に打ち合わせや作業を行っている。運営はスタッフが中心となり、地域包括支援センターが後方支援の立場から必要に応じてアドバイスをしている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思いを知る
- 第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて
- 第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）
- 第4回：若年性認知症とその支援、認知症カフェ実習の意見交換
- 第5回：今後の活動や研修について、チームオレンジの話、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・認知症サポーターステップアップ講座修了者が4名となりリーダー的にカフェの企画・運営に積極的に意見し、近所の方へ参加案内も行ってくれている。
- ・公民館の文化祭にポスター提示、チラシ作成、様々なところに配布、地域住民にも興味をもってもらえた。
- ・周知されていく達成感がメンバーのモチベーションアップに繋がっている。

### <課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・男性の参加者が少ない。
- ・ボランティアスタッフの高齢化。
- ・送迎があれば参加者増加が見込める。

## 8 チームのアピールポイント

- ・陶器のティーカップなど器やコーヒー豆にこだわっている。
- ・お揃いのオレンジ色のシャツを着用して結束力を図っている。
- ・スタッフは名札をつけ名前を覚えてもらい、参加者も名前の書いたシールを貼る。
- ・ボランティア保険に加入し事故や怪我への備えをしている。
- ・参加者が孤立しない声掛けに気を配っている。(守秘義務の理解)

## 9 今後の活動について

- ・近隣と交流がなく引きこもりぎみの高齢者へ直接自宅訪問して話し相手をする出前カフェを行いたい。その中で認知症のある方や家族の困りごとのニーズを把握し、お手伝いや相談相手になる。認知症ステップアップ講座をスタッフ全員が受講する。



# 木更津市

チーム名 【 チームオレンジ誰でもサロン 】
タイトル 【 ~ 老いても、病気や障がいをもっても、 その人らしく地域で暮らし続けていけるように ~ 】

## 1 自治体情報（令和7年11月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
136,777 人	37,808 人	27.7%	138.89K m <sup>2</sup>
木更津市は こんなところ！	木更津市は房総半島中央部にあり、東京湾に面した千葉県の業務核都市です。東京湾アクアラインでの交通の便も良く、潮干狩りやアウトレットなど観光地としても有名です。温暖な気候で過ごしやすく、農業や漁業も盛んであり、高齢者の方たちが元気で活気あふれる街です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和5年12月20日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催、見守り活動、外出支援など
活動頻度	月1回
参加費	500円
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人とその家族</li> <li>・地域住民</li> <li>・ボランティア（ステップアップ終了者含む）</li> <li>・地域包括支援センター職員</li> </ul>
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

2016年より、井戸端介護のスタッフと、長年、地域で精神保健福祉ボランティアとして、当事者研究をはじめ活動されている方がボランティアで始めた。

最初のはじまりは、家から出たがらない、引きこもっているおばあちゃんがお茶を飲みに来れるように、少人数でサロンをはじめてみよう企画した。

誰でもどうぞと、サロンを開いてきた中で、精神障がい当事者、介護をしているご家族、子育てをしているお母さん、若年性認知症当事者、県の若年性認知症支援コーディネーター、民生委員、社協、ケアマネ、福祉関係者、地域包括支援センター職員など、その時々、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所になった。

2023年、誰でもサロン運営メンバーが認知症サポーターステップアップ講座を受講し、2023年12月、チームオレンジとして登録した。

### 4 活動内容



SINCE 2016  
チームオレンジ 誰でもサロン



「まあま、お茶でも一杯どうぞ」

誰かと一緒に 食べるごはんの美味しいこと  
TVをみたり 昼寝をしたり  
家で過ごすように、ゆったりと



— 誰でもサロン —

○日時:毎月1回 第3日曜日、または第4日曜日に開催しています。

10:00~16:00 出入り自由です。

午前中は昼食作り。午後はお茶菓子をつまみながらのんびりと、手伝ってよし、寝ててもよし。気楽にお越しください。

○場所:ばった庵 木更津市中央1-4-11

○参加費:ごはん代500円(円)/お茶菓子のみ100円(円) 差し入れ歓迎

老いても、病気や障がいをもって、その人らしく、

地域で暮らし続けていけるように

誰でもサロンは、介護保険や制度に関係なく、縁があった人が誰でも気軽にきて過ごせる居場所です。

介護をしているご家族がほっと息できたり、悩みごとを話せたり。介護や福祉の現場で働いている人たち、認知症サポーター、地域のボランティアの方々と一緒にサロンを開きながら、

2023年よりチームオレンジの拠点のひとつとして活動しています。

【問い合わせ先】 ばった庵 0438-97-7987 【協力】 中部地域包括支援センター





月 1 回、デイサービスが休みの日曜日を利用して、10時～16時出入り自由で開催。午前中はお昼ごはんを作り、午後はお茶菓子をつまみながらゆっくりと過ごしている。手伝いたい人が手伝い、ソファで寝ている人も、お話をしている人もいる。

午後は、参加者の高齢者の人が歌を歌ったり、じわじわ体操で身体をゆるめたり、若年性認知症当事者の人がフルーツを吹いたり、東京から介助者と一緒に参加している重度の脳性麻痺の人は、自分の自立生活を発表したり、「ありのままの私」を表現する場にもなっている。

～季節の野菜や食材をたくさん使った手作りのごはん～

「今日のメニューは何かしら」

「美味しそうな匂いがしてきたよ」

海苔巻きを巻いたり、餃子や春巻きを包んだり、ハンバーグを丸めて焼いたり、コロッケを作ったり。参加者の人たちに手伝ってもらいながらごはん作りをしている。

当日来れない人は、お弁当にして家族が持ち帰ったり、お弁当を持って訪問したり、様子を見に行くこともある。



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- 運営メンバーが、食品衛生責任者講習を受講し、食品の扱い、除菌、消毒は徹底している。
- 次回サロンのお知らせを、運営メンバーが、事前にそれぞれ声かけや連絡をしているが、当日にならないと、参加者が何人くるかわからないため、お昼ごはんの準備が大変

である。多いときは30食になることもある。

- ・初めて参加しても、緊張しないように、声かけや、話があいそいなひとを繋いでいる。
- ・金銭的に余裕のない方からは、参加費をもらっていない。代わりに食器洗い等、お手伝いできることを協力してもらっている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市が開催するステップアップ講座にメンバーが参加し、チームリーダーを担う。

### 【木更津市ステップアップ講座内容】

- 第1回：講座の目的、認知症の基礎知識、木更津市の認知症に関する取り組み、地域の社会資源、家族介護者の思いを知る
- 第2回：認知症の人を理解するための基礎、認知症の早期発見・早期対応の重要性とMCI、コミュニケーションの基本、実習に向けて
- 第3回：実習（市内の認知症カフェに参加）
- 第4回：若年性認知症とその支援、認知症カフェ実習の意見交換
- 第5回：今後の活動や研修について、チームオレンジの話、実習体験者からの発表

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果 参加者の声>

- ・鬱で長くひきこもっていた人がサロンに出てきて、人と交流できるようになった。
- ・家だと誰とも話さない、一人だとあまり食べない、サロンに来ると野菜が多い、ごはんが美味しくて、気づいたら完食してた。意欲、食欲が出てきた。
- ・ここに来ると顔なじみの人たちがいてほっとする。悩みを聞いてもらえて、気持ちが楽になった。明日もなんとかがんばろうと思える。
- ・家で寝込んでいる家族の分も、お弁当にしてもらえて助かる。サロンに来れなくても話すきっかけになる。

### <課題>

- ・会場は木更津駅から近いので、参加者には自力で来てもらっていますが、どうしても来れない人は送迎している。
- ・参加者が多いと、駐車場が足りないなので、近隣のコインパーキングに停めてもらうようにしていますが、金銭的に余裕がない人もいるので、駐車場をどうするか。  
サロン当日だけ、近くの旧木更津市保健相談センター駐車場が借りれるようになる。

## 8 チームのアピールポイント

「老いても、病気や障がいをもって、その人らしく地域で暮らし続けていけるように」

「困ったときは、お互いさま」を愛言葉に、誰でもサロンは毎月開催、活動している。木更津はお祭りが盛んで、夏の一大祭り「やっさいもっさい」にも「どたばた連」(市内の高齢、障がい福祉関係者、当事者が参加できる連)として参加できる連があるので、サロンのメンバーを誘い、顔なじみの関係性が続いていくように、つながり続けている。

出逢わないと相手の困りごとは見えてきません。

「あの人元気かな、最近調子はどう？」気かけあうことで、困ったときに助けあえるように、これからも自分たちにできる活動を続けていきたい。

## 9 今後の活動について

介護で疲れているご家族や子育てで悩んでいるお母さんがほっとひと息できたり、悩みごとを話せたり。それぞれが抱えている悩みやしんどさは、すぐには解決できないことも多いが、サロンでごはんを食べたり、話したり、苦労話を聞きあいながら、「また、来月ね!」と、笑顔で帰られる姿をみていると、続けてきてよかったなと感じている。

誰でもサロンは、介護保険や制度に関係なく、縁があった人が誰でも気軽に来て過ごせる居場所である。介護や福祉の現場で働いている人たち、認知症サポーター、地域のボランティアの方々と一緒にこれからもサロンを開き、行政や地域包括支援センターと連携しながら、チームオレンジの拠点のひとつとして活動していきたい。

# 成田市

チーム名

【カフェ緑の牧場】

タイトル

【みんなで語らい、笑顔になろう！】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年12月4日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	お茶会、おしゃべり会、医師による講演、楽器演奏、歌、マジック、たこ焼き等
活動頻度	毎月第4土曜日 午後1時30分～午後3時30分
参加費	会費・参加費100円
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター、精神科医師
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成28(2016)年から、認知症コミュニティカフェの活動を開始。チームオレンジの立上げに向けて圏域の認知症地域支援推進員が声をかけ、運営するボランティアが令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年12月4日にチームオレンジ立上げとなった。

### 4 活動内容

認知症の方やその家族、地域住民など、誰でもゆっくり過ごせ交流できる場を提供している。現在、平均15~20名程の参加があり、主に軽い体操、歌、マジック等を楽しみ、おいしいコーヒーを飲みながら地域の人々と情報交換の場として利用している。



コーヒーを飲みながら  
談笑しています。



楽器を奏でたり、歌ったり。  
楽しい活動がたくさんあります。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

活動開始直後は包括職員や医師などがおらず、認知症の家族が相談に来ても、必要な行政サービスや介護・福祉サービスの案内ができなかった。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

歌や楽器演奏を通じて、参加者が元気に帰っていく。

<課題>

なし

## 8 チームのアピールポイント

近くで見守りながら、認知症の本人にもおしぼりを配ってもらったり、コーヒーを運んでもらったりしている。淹れ立てのコーヒーがおいしい。

## 9 今後の活動について

地域の交流の場、また認知症の方や家族の安らぎの場として活動を継続し、認知症普及啓発活動等を行っていく。

# 成田市

チーム名

【オアシスの会】

タイトル

【認知症とともに、楽しく暮らせる成田】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198 人	32,240 人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年12月16日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	相談、普及啓発、ピアサポート
活動頻度	毎月第4水曜日 午後1時30分～3時
参加費	会費・参加費500円（年間）
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（認知症家族会補助金）
メンバー構成	成田市オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター、市役所、社会福祉士
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

市内に認知症介護者を支援する場がなかったことから、認知症の介護をしている人にしかわからない思いを共感し合い、介護の助言や地域の情報交換をする場が必要と考え、平成20(2008)年度に実施した市主催「認知症高齢者の家族等のつどい」を発端として、参加者が中心となり平成21年4月より発足した。

会員数名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年12月16日に立上げとなった。市職員やオレンジコーディネーター(認知症地域支援推進員)が会の活動に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

### 4 活動内容

ひとりで悩んでいるよりもより心が落ち着き安心できること、介護する者同士での問題解決や精神的な回復を図るため、主に認知症高齢者を介護している方の悩みの傾聴や共感、疑問点、対応の工夫などの助言・共有を行う。また、認知症になっても支え合い地域の中で暮らせることを目指して、講演会・交流会・勉強会・施設見学等を実施し、市が主催する認知症普及啓発イベントにも積極的に参加・協力している。



9月20日のなりたオレンジプロジェクト  
合同啓発活動に参加しました！



10月19日の成田市健康・福祉  
まつりにてブースを出展しました！

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・来た時に苦しい表情をしていても、笑顔で帰っていけるように工夫している。
- ・介護をしている人の犠牲者を出さないように、傾聴・共感を大切にし、介護疲れを少しでも軽減できるような対応を心がけている。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること

6．成田市の取り組み

7．講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

介護者のストレス発散の場になる。介護疲れや不安感を共有することにより、新たな気持ちで家族と向き合うことができる。

<課題>

支援者側のサポートの課題がある。参加者が自分の気持ちや介護の苦勞を気兼ねなく吐き出せるような体制づくりや声掛けができていないか。

## 8 チームのアピールポイント

認知症本人、家族の気持ちをチームのみんなで受け止め、肯定的な気持ちになれるよう支援している。堅苦しい雰囲気ではなく、落ち着いた雰囲気の中で気持ちを共有できる。

## 9 今後の活動について

本人、家族の気持ちに寄り添いながら、本人のケアのための情報やアイデアと一緒に考え、介護者自身も元気に過ごせるような場づくり、活動を行っていく。

# 成田市

チーム名

【わっしょいカフェ】

タイトル

【みんなを笑顔に！わっしょい！わっしょい！】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年12月16日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	お茶会、制作（手芸・工作）、おしゃべり会、その他（声掛け、見守り）
活動頻度	毎月2回 第2火曜日、第4木曜日 午前10時～11時30分まで
参加費	なし
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（区費、居場所づくり助成金） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（個人からの寄付金）
メンバー構成	オレンジサポーター（6名）、ボランティア、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）

チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域の方が交流を持ちながら、元気になれる居場所づくりをしたいとの思いがあり、百歳体操を立ち上げた後、体操に来られない方の居場所づくりとして、何かできないか考えていた。

他地区で開催しているカフェに参加し、自身の地域でもできるのではいかと、コーヒーの淹れ方を教わり、歩いて行ける集会所を活用し「わっしょいカフェ」を立ち上げた。

会員数1名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講し、令和6年12月16日に立上げとなった。市職員やオレンジコーディネーター（認知症地域支援推進員）が会の活動に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

### 4 活動内容

- ・淹れたてのコーヒーを提供し、話を楽しむ。
- ・季節に合わせた制作（クリスマスツリー、押し花コースターなど）を行う。
- ・生活の楽しみとなるよう、地域のイベントに声を掛け、参加者を誘い外に出る機会を増やしている。



ボランティアが美味しいコーヒーを淹れています！



もみの木の押し花コースターを作る様子

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

カフェの他、定期的に季節に合わせた制作活動を取り入れ楽しんでもらっている。利用できる地区を限定せず、他の地域にもカフェの案内を行っている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域の集まりの場が無かったが、通いの場ができた事で地域の方に喜んでもらえている。世代や障がい等関係なく交流の場となっている。

<課題>

仕事をしている方や若い世代も、カフェに協力的で思いがあるが参加ができていない。今後も現状の火・木の月2回で開催。続けていくことで、次世代へつないでいく事を考えている。

## 8 チームのアピールポイント

約60世帯の地区のため、皆が和気あいあいとしている。仕事や介護など、お互いの家庭の事情も理解しあって無理ない活動を心掛けている。また、コーヒーを淹れるボランティアの他、気持ちよく集会所を使って貰おうと草刈りをして下さる方や、家で咲いた花を飾ってと持参される方、家が遠い友人を心配して送迎をしてくださる方など、各々がカフェのためできることを自然に行っている。

## 9 今後の活動について

認知症や障がい等があっても、誰もが安心して来られるようなカフェづくりを行っていきたい。

# 成田市

チーム名 【公津の杜手芸クラブ】
タイトル 【誰もが気軽に参加できる手芸クラブ！】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年11月26日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	制作（手芸・創作活動）
活動頻度	毎月第2金曜日、第4月曜日 午前9時30分～
参加費	なし。材料は持ち込み。
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

参加者が認知症を発症した事や、地域包括支援センターの総合相談からの個別支援で「認知症なってもデイサービス以外で、仲間同士で手芸が楽しめる所について」の相談があったことから、認知症地域支援推進員の呼びかけにより、認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座を受講。認知症の理解や対応・接し方、地域での支え合いについても一緒に共有しチームオレンジの結成に至った。

### 4 活動内容

地区の住民より「地域の身近な場所で手芸ができる交流の場」についての相談があり、令和5年10月から活動を開始。現在10名程の参加があり、会話を楽しみながら編み物や刺繍等を作成している。だれもが気軽に参加できる手芸クラブとして活動し、今年度は、作成した作品を成田市健康・福祉まつりにて展示する等、認知症啓発促進活動や就労的支援活動を広げている。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

公津の杜手芸クラブは、それぞれが好きな作品を作成しながら参加者と一緒に認知症当事者やその家族とのコミュニケーションを大切に活動している。また、地域の方から認知症促進活動としてシンボルカラーである「オレンジ色」をデザインとし、「ORANGE 胡蝶蘭」の作品を市内の公的機関や地域包括支援センター等に展示。作り手の方や地域の方と一緒に公津の杜手芸クラブの活動が広がっている。



## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

参加者同士でちょっとした見守りや自宅から通いの場までの送り迎えが自然とできている。また、参加者の中には民生委員を経験された方や介護経験者、介護スタッフの方もいるため認知症当事者の家族のピアカウンセリングにもなっている。活動の継続により、作成した作品を成田市健康・福祉まつりへ展示活動を行うことができた。

<課題>

手芸用品は持ち込みで予算がない。受入れ人数の課題がある。

## 8 チームのアピールポイント

公津の杜手芸クラブは誰もが気軽に参加可能。参加者の中には、民生委員を経験された方や介護経験者、介護スタッフの経験者がいるので、認知症当事者やその家族も安心して活動に参加できる。

## 9 今後の活動について

地域の身近な居場所として活動を継続し、認知症マップを作成しながら普及啓発活動等を行っていききたい。

# 成田市

チーム名  
【壮年クラブ】

タイトル  
【みんなで地域に住む人を元気にしよう】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198 人	32,240 人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年11月26日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	体操・運動
活動頻度	毎週火曜日、第1金曜日 午前9時30分
参加費	なし
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、認知症の本人、認知症の人の家族、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

元々は地区の壮年クラブ活動のみであったが、令和元年5月より介護予防のための体操（なりたいきいき百歳体操）を導入。現在の参加者は15名程。自分自身の健康面や仲間同士で、もの忘れの心配や親の介護等の悩み事が段々と増えた。「なじみの関係性」を大切にしながら仲間同士の支え合いを継続するため、会員数名が令和6年10月30日に認知症サポーターステップアップ講座を受講。令和6年11月26日にチームオレンジの結成となった。市職員やオレンジコーディネーター（認知症地域支援推進員）が会に参加し、情報提供や後方支援を担っている。

### 4 活動内容

主な活動はなりたいきいき百歳体操の実施。体操のほかに成田市高齢者クラブ連合会の行事や自治会の清掃活動、市のクリーンハイキング等の行事へも参加している。



壮年クラブのみなさん



オレンジリングを身に着けています

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

参加者が自分のペースで体操が行えるように、雰囲気づくりにも工夫している。また、体操の他に市の出前講座の活用や地域の清掃活動等に参加することで、社会参加を通じながらの活動となった。



なりたいきいき百歳体操の様子

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

自分自身の健康意識を高めながら、参加者とのコミュニケーションを大切することができた。なりたいいきいき百体体操は声を出しながら行う体操なので嚥下機能の向上や認知症予防にも力を入れている。専門職による体力測定や地域包括支援センターの職員の参加もあるので身近な相談窓口にもなっている。

<課題>

活動への継続と受入れ人数について

## 8 チームのアピールポイント

地域住民やオレンジサポーター等で構成されているチーム。介護予防と居場所づくりを大切にしながら仲間同士で支え合い、地域活動にも積極的に参加していく。

## 9 今後の活動について

住み慣れた場所で地域の方々と日々の生活が楽しめるように身体づくりや認知症予防を行っていく。認知症の相談があった場合は、チームみんなで支えながら地域包括支援センターとも連携する。

# 成田市

チーム名

【にじいろカフェ】

タイトル

【またみんなと笑顔で会いたいと思えるようなホットな場所】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198 人	32,240 人	24.14%	213.84K m <sup>2</sup>
市(町)は こんなところ！	<p>本市は令和6(2024)年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年4月15日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他( )
活動内容	お茶会、制作(認知症啓発)
活動頻度	不定期(2か月に1回程度)
参加費	100円
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他( ) 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他( )
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター(認知症地域支援推進員)
チームオレンジの類型 1	第1類型(共生志向の標準タイプ) 第2類型(既存拠点活用タイプ) 第3類型(拠点を設置しない個別支援型タイプ) その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

コロナ禍で中断していた認知症カフェのボランティアから活動再開の提案があり、以前は施設内で実施していたカフェを地域包括支援センターの圏域内に活動範囲を拡げて新たに共生型コミュニティカフェとして再開することになった。対象は全世代だが、今後は認知症当事者も参加する前提で認知症地域支援推進員の呼びかけにより、ボランティア5人が認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ講座を受講した上で、認知症理解や対応等をメンバー間で共有、チームオレンジとして活動を継続することとなった。

### 4 活動内容

淹れたてのコーヒーを提供して、来場者との会話を楽しみながら折り紙等の制作活動を行っている。また、地域内の技能実習生に日本語の歌を披露してもらったり健康に関するミニ講座を開催するなど、世代にこだわらない交流の場となるよう心がけている。今年度は成田市や成田市社会福祉協議会と協力して、認知症啓発のための「オレンジ鶴」の製作に携わっている。

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

今年度活動を始めたばかりで開催頻度が少なくカフェ自体の地域住民の認知度が低い。そのため、拠点であるコミュニティセンター以外の場所でも開催している。活動は参加者全員で楽しめるものを選ぶようにしている。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

### 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

地域の集まりの場が少ない地域なので、ただ集まってコーヒーを飲むだけでも顔を合わせる機会が増えた。

<課題>

開催頻度が少なく地域での認知度が低いため、当事者の参加が殆どない。今後は月1回程度開催できるように検討したい。

## 8 チームのアピールポイント

ボランティアのメンバーは民生委員やこども食堂ボランティア、百歳体操サポーターなど他の活動と並行している方が多く、色々な立場の人と話ができる体制が整っている。また、オレンジサポーターが5人いるので、認知症当事者や家族の方にとっても安心して過ごしてもらえる場所である。

## 9 今後の活動について

認知症や障害等の有無、世代に関係なく地域住民が気軽に立ち寄れるような居場所づくりを心がけたい。

# 成田市

チーム名 【きらら登校時見守りたい。】
タイトル 【安全に登校できるように見守ります。】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.2%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	<p>本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年7月	
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（GHきらら・公津の杜中学校）	
活動内容	中学生登校の見守り活動	
活動頻度	・毎月第2・4月曜日7:30～8:00 公津の杜5丁目付近	
参加費	無料	
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）	
メンバー構成	オレンジサポーター ボランティア 認知症の本人 認知症の人の家族 地域包括支援センター	
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員兼生活支援コーディネーター	



チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和7年6月 成田市公津の杜中学校 地域コーディネーターより「地域学校協働活動」ボランティア募集中、のお話を頂く。同年7月より登校時（7時半から8時）見守り活動を開始。令和7年11月25日 認知症サポーターステップアップ講座を職員が受講。「きらら登校時見守りたい」チームオレンジの立ち上げとなる。

### 4 活動内容

ご入居者に、以前、児童相談所にお勤めされていた方がおり、職員と一緒に「おはようございます！」の挨拶。公津の杜中学校の先生方と、子供たちが安全に登校できるよう、見守り中。

公津の杜中学校校長 先生がたに、レクチャーいただき、活動開始

### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

夏の暑さ対策としてネッククーラーを使用。冬の防寒対策としてダウンジャケット 手袋 ネックウォーマーを着用。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施  
【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

- 1．成田市の現状
- 2．認知症サポーター養成講座のおさらい
- 3．認知症の当事者・家族について知る
- 4．チームオレンジとは
- 5．チームオレンジとしてできること
- 6．成田市の取り組み
- 7．講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果> 子供たちと車両の衝突事故を防ぎ、安全な通行に貢献できる。社会に貢献することで、ご利用者の生きがいに繋がる。

<課題> 登校時間帯の交通量の多さから、交通事故の可能性が高い。

## 8 チームのアピールポイント

「おはようございます!」「行ってらっしゃい」と元気なあいさつ(^^)!

## 9 今後の活動について

現在は特定の方のみ、参加頂いているが、お子さんを好きな入居者が沢山いるので、みんなで見守り活動に参加出来たらいいなと考えている。また、公津の杜地区にお住まいの方々にも現状を知って頂き、子供たちが安全に登校できるよう一緒に見守って行けたらと思う。

# 成田市

チーム名 【公津・飯仲元気クラブ】
タイトル 【公津の杜公園 WALKING】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.14%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年11月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	ラジオ体操・懐メロ斉唱・WALKING等
活動頻度	第1木曜日 10:00～ 成田市公津の杜公園内
参加費	無料
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポーター ボランティア 認知症の本人 認知症の人の家族 地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員兼生活支援コーディネーター

<p>チームオレンジの類型 1</p>	<p>第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について 2</p>	<p>3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域での活動を続ける中で、参加者から物忘れや健康面に関する相談が増えてきた。また、認知症サポーター・オレンジサポーターの支援に加え、学生ボランティアの参加もあり、幅広い世代が関わる活動へと広がってきた。さらに、高齢者施設の入居者の方々が参加される機会も生まれたことから、「誰もが気軽に参加できる居場所づくり」が求められるようになり、その受け皿としてチームオレンジを立ち上げる流れとなった。



### 4 活動内容

令和6年11月より、公津の杜公園でのWALKING活動がスタートした。公津地区社会福祉協議会、公津地域包括支援センター、国際医療福祉大学、福祉サービス事業所と連携し、地域と多機関が協力して取り組んでいる。活動では、地域の皆さんと一緒にラジオ体操や懐かしい懐メロ斉唱で準備運動を行い、その後は季節を感じながらの散歩を楽しんでいただいている。地域住民に加え、国際医療福祉大学の教員・学生も参加しており、世代を超えた交流の場にもなっている。また、大学から介護予防に関する情報提供をいただく機会もあり、健康づくりの学びの場としての役割も広がっている。時には、地域の方から頂いたお花や手芸品を参加者にお渡しするなど、温かい地域交流も生まれている。



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

この活動では、参加者の皆さんにウォーキングをより楽しんでいただくため、ラジオ体操や懐メロ斉唱を取り入れ、身体だけでなく心もほぐれる時間を設けている。また、ウォーキングコースの途中で認定こども園があり、園児による合唱やお遊戯のサプライズが行われるなど、世代を超えた温かい交流が継続していることも大きな特徴。健康意識の可視化を目的に、国際医療福祉大学と連携し「公津の杜公園 WALKING MAP」を協働で作成した。参加者が自分の健康づくりを実感できる仕組みづくりにも力を入れている。さらに今年度は、認知症普及啓発の一環として、不登校の中学生を支援するNPO法人と連携し、地域の皆さんと一緒に「オレンジブローチ」を制作した。完成したブローチは地域住民へ配布し、認知症に対する理解促進にもつなげている。



## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

活動を続けてきたことで、参加者の健康意識が高まり、ウォーキングや体操が日常生活の中に取り入れられるようになった。また、地域住民や大学生、福祉事業所の利用者など多世代が関わることで交流が広がり、認知症の方やその家族も気軽に参加できる居場所づくりにつながっている。

<課題>

継続的な参加者の確保や多世代の交流の促進は進んでいるものの、活動の周知や新しい参加者の獲得には課題がある。また、認知症予防や健康づくりの効果をより可視化する仕組みづくりも必要である。さらに、参加者一人ひとりの健康状態や認知機能に応じたサポート体制を充実させ、安心して参加できる環境を整えていくことが今後の課題となっている。

## 8 チームのアピールポイント

チームオレンジは、認知症の有無に関わらず、誰もが気軽に参加できる地域の居場所として活動している。ウォーキングやラジオ体操、懐メロ合唱などを通じて健康づくりを楽しめるだけでなく、多世代が交流することで孤立防止や地域のつながりを生み出している。

## 9 今後の活動について

今後は、国際医療福祉大学が年1回実施している「こづつ体力・認知力チェック」と活動を循環させながら、地域の方々の認知症予防にさらに重点を置いて取り組んでいく。健康づくりと認知症予防の両面から、参加者が安心して継続できる居場所づくりを進めていく。

# 成田市

チーム名 【美郷台認知症マフの会】
タイトル 【おしゃべりしながら、手先を使って贈られる側の笑顔を想像してマフ作りを楽しむ】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.14%	213.84K m <sup>2</sup>
成田市は こんなところ！	本市は令和6（2024）年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年6月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	制作（手芸・工芸）
活動頻度	第1木曜日 11:00～ 第3水曜日 11:00～
参加費	無料
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（成田地区社協）
メンバー構成	オレンジサポーター、ボランティア、軽度認知症の本人 地域包括支援センター
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員）
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他

チームオレンジ三つの基本  
について 2

3つの基本を満たしている

3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

同じ圏域内で、地域の方々が集まって、会話を楽しみながら手芸【認知症マフ】を行っている。地域包括支援センターの認知症地域支援推進員から情報を入手。「どうすれば私たちの地域でもできる？」と包括に相談。得た情報を地域へ持ち帰り、住民同士で話し合い先ずは目標を設定した。その後は認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座を受講。認知症に対しての正しい知識と認知症の人に対しての理解を深める事ができた事により、地縁関係者や地域住民、協力施設（サービス付き高齢者向け住宅）と一緒に情報を共にし、チームオレンジが結成された。

### 4 活動内容

令和6年6月から地域包括支援センターの認知症地域支援推進委員より、【認知症マフ】の話を伺い活動を開始した。同じ地域に住む住民同士が先生、生徒となり、会話を楽しみながら手先を動かし、メンバー同士でマフのユニークな装飾について、最終的には贈られる側（病院や高齢者施設など）の喜ばれる顔を想像しながら、皆で案を出し合い、作品づくりに取り組んでいる。今年度は成田市や成田市社会福祉業議会の行事での展示の他、近隣の薬局や商業施設でも展示に協力して頂き、モチベーションも向上した。現在は認知症マフの作成と並行し、季節にマッチした折り紙の創作活動も行っている。今後も認知症のご本人やご家族が気軽に立ち寄れる集いの場、社会参加の場となるよう活動を継続していく。



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

認知症マフの作成を行う上で、毛糸の購入費用をどうすればよいのか？ 思案していたが、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員から、地縁関係者（成田地区社協）と小地域ケア会議の提案を頂き、趣旨を説明した結果、コンセンサスを得られ費用の支援を受ける事ができた。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

1. 成田市の現状
2. 認知症サポーター養成講座のおさらい
3. 認知症の当事者・家族について知る
4. チームオレンジとは
5. チームオレンジとしてできること
6. 成田市の取り組み
7. 講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

新たな集いの場を設けたことで、住民同士の繋がり 手先を使う 会話を楽しむ 社会参加をすることで認知症予防になっている。また、この活動を継続することで、認知症の人やその家族、そして地域に対し、様々な良い効果が生まれている。

<課題>

活動を継続的に行うためには、担い手を育成し、活動の更なるモチベーションを維持する事が大切である。高齢化が進む中で、若年層の参加を促すことが課題と思われる。

## 8 チームのアピールポイント

殆どの参加者が、地域で開催されているサロンや介護予防体操教室（なりたいきいき百歳体操）に参加されていたため、活動当初からコミュニケーションが築かれていた。回を重ねることで、作品のクオリティーもあがり、参加者はアイデアを出し合いながら笑顔で取り組んでいる。

## 9 今後の活動について

これからもチームの一言PRをスローガンに、これまで創ってきた地域との繋がりを大切にしながら、認知症普及啓発活動として、マフを作成していく。

# 成田市

チーム名

【チームひまわり】

タイトル

【身近な所から、新しい認知症観を広めていこう】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
133,198人	32,240人	24.2%	213.84km <sup>2</sup>
市(町)は こんなところ！	<p>本市は令和6(2024)年3月31日に市制施行70周年の節目を迎えました。日本の空の玄関口・成田国際空港を有する市として、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を将来都市像として掲げています。市の中心部には1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でにぎわいます。市内にはほかに数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和7年2月21日
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他( )
活動内容	百歳体操体験会・脳トレーニング・お茶会
活動頻度	月1回
参加費	1回200円
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他( ) 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他( )
メンバー構成	オレンジサポーター・ボランティア・認知症ご本人 地域包括支援センター その他(カフェに来て頂いた方。認知症の方が参加もされることもあり得る。)
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員)
チームオレンジの類型 1	第1類型(共生志向の標準タイプ) 第2類型(既存拠点活用タイプ)

	第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

施設の推進会議に認知症カフェ設立の議題が上がり、管理者から協力依頼があった。地区社協の会長さんをはじめ、関係機関に協力の打診をし、準備委員会を開催。それに先立ち情報収集やカフェの見学、打ち合わせ 等々を経て、民児協や既存の団体への説明や、カフェのネーミングなど具体的な内容も含め、何度も地域ケア会議を行い設立となった。

### 4 活動内容

おしゃべり

買い物 移動販売が来るので、希望者は買い物をして頂く。

レクリエーション 参加者の希望を聞き取り、それを踏まえて行っている。



### 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

誰でも気軽に参加できるように地域の方への声掛けや周知を行いながら活動を進めましたが、チームオレンジの目的や活動内容が地域の方に十分に伝わっていないと感じる場面があった。活動を多くの方に知っていただける取り組みが必要と感じた。参加される方が安心して過ごせるよう話しやすい雰囲気づくりを大切に、認知症の方やご家族の気持ちに寄り添いながら、無理なく参加できるように配慮した。

### 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

【開催状況】年1回、対面にて実施

【講座内容】講師：オレンジコーディネーター、認知症地域支援推進員

- 1．成田市の現状
- 2．認知症サポーター養成講座のおさらい
- 3．認知症の当事者・家族について知る
- 4．チームオレンジとは
- 5．チームオレンジとしてできること
- 6．成田市の取り組み
- 7．講座のまとめ

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

認知症の方やご家族を地域で支えていこうという意識が広がった。相談しやすい環境づくりや、今後の地域での見守りや支え合いにつながる取り組みとなっている。

### <課題>

チームオレンジの活動を地域にさらに周知し広く知ってもらうこと。参加している地域住民や、協力して下さる方を増やしていくのが課題。

## 8 チームのアピールポイント

地域包括支援センターが併設されている福祉センターを拠点としているため、専門職と地域住民、参加者の方が連携しやすく相談や支援につながりやすい体制となっている。参加している地域の方々がとても温かく、新しく参加した方にも優しく声をかけるような雰囲気がチームの大きな魅力。

## 9 今後の活動について

活動の主となるカフェに当事者やその家族に積極的に参加をして頂けるよう、認知症に関する周知活動を行っていく。立ち上げの話し合いをする中で参加者の方々から、自身の身近でも認知症に関するネガティブな声を聞くこともあるとの声が上がったため、まずは、チームひまわりが関われる範囲で普及啓発を行っていく。新しい認知症観の概念を身近な人から広めていき、地域に住まう認知症の方々が生きやすくなることに少しでも寄与していきたい。

# 佐倉市

チーム名 【チームオレンジ佐倉】
タイトル 【頼りになるチームを目指して！】

## 1 自治体情報（令和7年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
168,489 人	57,103 人	33.89 %	103.69 K m <sup>2</sup>
佐倉市は こんなところ！	<p>千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から 40 km、成田国際空港へは 15 km の距離にあります。市北部には印旛沼が広がり、印旛沼周辺や佐倉城址周辺、また東部・南部の農村地帯などには豊かな自然が残っています。</p> <p>佐倉城跡は、城址公園として整備され、佐倉連隊の置かれた地には、国立歴史民俗博物館が建てられています。その他にも、武家屋敷や旧堀田邸、佐倉順天堂記念館など、歴史の舞台となった場所が多く残ります。</p> <p>佐倉城本丸跡の桜や城址公園の菖蒲のほか、印旛沼のほとりにあるふるさと広場のチューリップや向日葵、コスモスなど、季節ごとに自然の美に囲まれたカラフルな大地が佐倉の特色です。広場内にはシンボルである本格的オランダ風車「リーフデ」が風の力で雄大に回っています。（佐倉市 HP より）</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和3年11月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護のことを学ぶ教室やオレンジカフェで、認知症の方や家族の付き添い、見守り、作業のお手伝い</li> <li>・介護予防教室、介護予防の通いの場に参加している認知症の方の見守り、声かけ、お誘い</li> <li>・「認知症サポーター養成講座」の開催のお手伝い</li> <li>・各地域で開催される「認知症高齢者声かけ訓練」に参加など</li> </ul>
活動頻度	随時
参加費	飲み物代 200 円程度（オレンジカフェのみ）

運営財源	市町村からの委託 会費・参加費 上記の財源 市町村一般財源 その他（ ）	市町村からの補助 その他（市の予算） 地域支援事業交付金
メンバー構成	一般市民（民生委員含む）、介護・福祉・医療専門職、 包括職員、行政職員	
チームオレンジ コーディネーターの属性	行政職員、地域包括支援センター職員（認知症地域支援推 進員）	
チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他	
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている	

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

<p>令和元年6月に認知症施策推進大綱において令和7年度までにチームオレンジの整備が示されたことから、市内5か所の地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が中心となって検討を重ね、令和3年11月に第1回ステップアップ講座を開催し、チームオレンジが始動。</p> <p>対象者は日頃から介護予防ボランティア、民生委員など地域包括支援センターと連携を図りながら地域で活動する方に直接声をかけ受講してもらった。</p> <p>メンバーにはステップアップ講座で講師を務めた認知症ケア専門士や地域包括支援センターの職員も含まれており、市民も専門職もみんなで認知症の人を支えていく体制となっている。その後令和4年、6年、7年にステップアップ講座を開催し、令和7年12月末時点で95名がメンバーとなっている。</p>
---

#### 4 活動内容

認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座で行う「寸劇」に出演  
介護予防の通いの場に参加している認知症の方のお誘い、見守り、声かけ、ちょっとしたお手伝い

介護に関するテーマを学ぶ教室で、グループワークのファシリテーターを担当

認知症サポーター養成講座キャラクターの口バのマスコット作成

地域包括支援センターが開催するオレンジカフェのお手伝い（参加のお誘い、参加中の声かけ、見守り、付き添い、作業の補助等）



オレンジカフェの参加者全員で佐倉市のケアパス「認知症すごろく」を行っている様子です。

チームオレンジのメンバーが各テーブルについて、認知症の人をさりげなくサポートしています。参加者の表情やちょっとした言葉などを見逃さず、楽しんで過ごしていただけるよう心掛けています。

認知症高齢者声かけ訓練にスタッフとして参加

（道に迷って声をかけられる役の方の付き添い、補助）



右手前で腕章をつけているのがチームオレンジのメンバーです。

迷子役の方（中央で帽子をかぶっている女性）とペアを組んで、声をかける参加者の様子を見守ったり、上手に声をかけられた方をねぎらったりしてサポートします。

9月の認知症月間（世界アルツハイマー月間）に合わせ、市役所や図書館、駅、公園の売店などに設置した啓発コーナーに飾るため、認知症の本人や家族からのメッセージを掲載したポスターを作成



チームオレンジのメンバーで集まり、啓発用のうちわを作成。

手書きのイラストやメッセージのほか、季節の花の絵や折り紙などできれいに飾り付けました

作ったうちわは、駅や図書館の啓発コーナーでひととき注目を浴びていました。

## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

もともとオレンジカフェのお手伝いや通いの場の運営等で活動しているメンバーが多いため、チームオレンジ結成後も地域包括支援センターと協力しながら各自の活動を継続するなかで、認知症の人や家族への個別支援（ゆっくりお話を聞いたり、今後の活動に生かせるような本人の得意なことを見つけるなど）を充実させられるよう取り組んでいる。

また、各地域の活動状況を共有し、メンバー同士の交流を図るために、毎年交流会または研修会を開催。お互いの活動報告や今後取り組んでみたいことなどについて話し合うことで、モチベーションの維持につながっている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

概ね毎年1回開催。

### 【内容】

- ・佐倉市の認知症施策、社会資源（講師：市職員、認知症地域支援推進員）
- ・チームオレンジの活動報告（講師：認知症地域支援推進員）
- ・認知症サポーター養成講座（講師：認知症地域支援推進員）
- ・認知症の方への意思決定支援（講師：認知症ケア専門士）
- ・パーソンセンタードケア（講師：認知症ケア専門士）
- ・認知症の人への対応ロールプレイ（講師：認知症ケア専門士、キャラバンメイト）

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

・ステップアップ講座を受講したことで、認知症の方への対応についてより一層理解が深まった。また、カフェなどでの活動の際は、「チームオレンジの　　さん」と紹介することにより、チームオレンジの一員としての意識が高まった。（チームオレンジの知名度も上がる！）

認知症の方への対応においては、特に本人の意思決定支援に着目し、本人がやりたいことをみつけて、一緒に進めて行こうという視点のもと今後の活動につなげている。

### <課題>

・各メンバーが希望する活動内容や活動場所のマッチング（市全体の活動内容を広げていく必要がある）

## 8 チームのアピールポイント

もともとボランティアや民生委員など、地域で活動していたメンバーが主であり、メンバー同士の連携、またメンバーをサポートする認知症地域支援推進員との連携がとれているため、チームオレンジ活動に対する理解・協力を得られやすく、フットワークも軽快。

認知症の有無を問わず高齢者への対応経験も豊富な方が多いことから、オレンジカフェなどで認知症の当事者や家族のちょっとした悩み、困りごとをキャッチすると、さりげなく寄り添い、お話を伺うことができる。地域で気になる方を見つけた際も地域包括支援センターと協力して見守りや必要時の支援につなげやすい体制が取れている。

## 9 今後の活動について

当事者のやりたいことを引き出し、家族もチームオレンジもみんなと一緒に楽しめるイベントの開催や居場所づくりにつなげていきたい。

# 佐倉市

チーム名  
【チームオレンジ「四季」】

タイトル  
【認知症当事者の方の支援活動】

## 1 自治体情報（令和7年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
168,489 人	57,103 人	33.89 %	103.69 K m <sup>2</sup>
佐倉市は こんなところ！	<p>千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から 40 km、成田国際空港へは 15 km の距離にあります。市北部には印旛沼が広がり、印旛沼周辺や佐倉城址周辺、また東部・南部の農村地帯などには豊かな自然が残っています。</p> <p>佐倉城跡は、城址公園として整備され、佐倉連隊の置かれた地には、国立歴史民俗博物館が建てられています。その他にも、武家屋敷や旧堀田邸、佐倉順天堂記念館など、歴史の舞台となった場所が多く残ります。</p> <p>佐倉城本丸跡の桜や城址公園の菖蒲のほか、印旛沼のほとりにあるふるさと広場のチューリップや向日葵、コスモスなど、季節ごとに自然の美に囲まれたカラフルな大地が佐倉の特色です。広場内にはシンボルである本格的オランダ風車「リーフデ」が風の力で雄大に回っています。（佐倉市 HP より）</p>		

## 2 活動の概要

開始時期	令和6年4月
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	花壇整備、認知症カフェ支援、認知症高齢者声かけ訓練支援 定例会開催
活動頻度	花壇：月2回（1月～3月はお休み） 認知症カフェ：月1回 声かけ訓練：随時 定例会：2カ月に1回
参加費	無料
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（ ） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（佐倉市社協からの活動助成金）
メンバー構成	・佐倉市志津地域在住の認知症の人、認知症の人の家族、 および認知症サポーター（令和7年8月1日現在8名） ・認知症当事者は、主に花壇整備活動時にその都度、 声かけをして参加しています。
チームオレンジ コーディネーターの属性	・地域包括支援センター職員3名 （うち認知症地域支援推進員2名）

チームオレンジの類型 1	第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他
チームオレンジ三つの基本 について 2	3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・令和4年11月 認知症サポーターステップアップ講座受講者を対象に、地域包括支援センターから声かけがあり、メンバー6名が顔合わせ。
- ・その後、団体としての具体的な活動と団体登録に向けて意見交換を重ね、団体名称を“チームオレンジ「四季」”に決定。
- ・令和6年4月から花壇整備開始し、同年10月にロバ隊長マスコットづくりも開始。これに並行して、毎月1回開催されるオレンジカフェや認知症高齢者声かけ訓練にも協力メンバーとして参加。
- ・令和6年11月 佐倉市ボランティアセンターに団体登録し現在に至る。

### 4 活動内容

- ・認知症当事者といっしょに花壇整備活動
- ・オレンジカフェに協力ボランティアとして参加
- ・認知症高齢者声かけ訓練の補助役などサポーターとして参加
- ・2カ月に1回、定例会を開催し、活動報告と予定の確認



花壇整備活動



定例会で打合せ

ロバ隊長マスコット▶



## 5 活動を進めていく上で失敗したこと・工夫したこと・配慮したこと

- ・認知症当事者の方については、地域包括支援センターを介し紹介をいただいている。
- ・2カ月に1回の定例会で活動の報告と今後の計画について話し合い、活動状況を共有するほか、メンバーが楽しく活動できるよう忌憚のない意見交換をしている。

## 6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

佐倉市全体で概ね毎年1回開催。

### 【内容】

- ・佐倉市の認知症施策、社会資源（講師：市職員、認知症地域支援推進員）
- ・チームオレンジの活動報告（講師：認知症地域支援推進員）
- ・認知症サポーター養成講座（講師：認知症地域支援推進員）
- ・認知症の方への意思決定支援（講師：認知症ケア専門士）
- ・パーソンセンタードケア（講師：認知症ケア専門士）
- ・認知症の人への対応ロールプレイ（講師：認知症ケア専門士、キャラバンメイト）

## 7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

### <効果>

- ・いっしょに花壇整備に参加している認知症当事者の方に、ご自分の手で花壇を整備し花を育てることに楽しさと達成感を感じていただいている。
- ・これまで雑草で覆われていた駅前の空地が花壇に変わり、多くの通行者から花壇そのものにはもちろん、活動の趣旨に対して賞賛の声をいただいている。

### <課題>

- ・いっしょに活動していただける方を増やしていきたい。

## 8 チームのアピールポイント

- ・みんなでいっしょに考えて、楽しく、無理のない活動ができている。
- ・メンバーそれぞれの得意分野が活動に活かされている。

## 9 今後の活動について

花壇整備、認知症カフェ支援を基本に活動を展開するほか、メンバーの研鑽につながる認知症関連行事への参加や、当事者の方といっしょにできる活動を包括支援センターと相談して、可能な範囲で実施していきたい。

# 習志野市

チーム名  
【にこにこローズカフェ】

タイトル  
【みんなの笑顔咲くカフェ】

## 1 自治体情報（令和7年3月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
175,009人	41,511人	23.7%	20.97K㎡
習志野市谷津は こんなところ！ 人口：39,525人 高齢化率：19.7%	<p>習志野市は千葉県の北西部に位置し、東京から30キロメートル圏内にあり、谷津地区は東京よりの西側に位置しています。谷津圏域北側（奏の杜地区）にはJR津田沼駅があり、宅地開発によって超高層マンションの建設が進み、都内などから転居してくる若い世代が多いのが特徴です。</p> <p>谷津圏域南側（谷津・谷津町地区）には京成線の谷津駅があり、昭和レトロでおしゃれな谷津商店街を抜けると、谷津干潟や谷津バラ園があり昔から地域の人々に親しまれています。バラ園入口の脇には「読売巨人軍発祥の地」の碑があり、バラの見頃である春と秋には多くの人でにぎわいます。</p>		

## 2 活動の概要



開始時期	令和4年
実施主体	市町村 地域包括支援センター 住民・ボランティア 社会福祉協議会 その他（ ）
活動内容	認知症カフェの開催、小学生向けの認知症サポーター養成講座、地域のイベントでの啓発活動
活動頻度	月1回
参加費	無料
運営財源	市町村からの委託 市町村からの補助 会費・参加費 その他（社会福祉協議会） 上記の財源 市町村一般財源 地域支援事業交付金 その他（地域サロン助成金）
メンバー構成	民生委員・児童委員 キャラバン・メイト 高齢者相談員 URコミュニティ生活支援アドバイザー 介護サービス事業所職員 認知症の人の家族 傾聴ボランティア
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員

<p>チームオレンジの類型 1</p>	<p>第1類型（共生志向の標準タイプ） 第2類型（既存拠点活用タイプ） 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について 2</p>	<p>3つの基本を満たしている 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

### 3 チームオレンジ結成までの流れと経過

<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層協議体で「つながるを止めないために、今、地域でできること」の実現に向けて話し合った結果、コロナ禍で認知症カフェが中断し、認知症の人や家族が地域で孤立している課題が抽出された。</li> <li>・UR コミュニティ・認知症地域支援推進員を中心とした協議体メンバーやキャラバン・メイトの有志でボランティアの会を発足、話し合いを重ね、まずはやってみよう地域で認知症カフェの開催が決定。谷津の高齢者の笑顔を取り戻そう！との思いのもと「にこにこローズカフェ」と命名。</li> <li>・ボランティアメンバーを中心に高齢者相談センター（地域包括支援センター）とUR コミュニティと共催で1年間限定で「にこにこローズカフェ」を開催。（10月、12月、3月）</li> </ul> <p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UR コミュニティの集会所で開催されている転倒予防体操の推進員を中心に地域のボランティアの方々が話し合って「にこにこローズカフェ」を社会福祉協議会の地域サロンとして継続することを決定。</li> <li>・「認知症カフェ」の開催と同時に、転倒予防体操の推進員が民生委員を兼ねていたこともあり、地域の方の見守りを中心としたチームオレンジとしての活動を開始。</li> </ul> <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回開催（6月、9月、12月、3月）</li> <li>・開催月以外の月はミーティングを行い前回の振り返り、次回の準備や情報共有を行った。</li> </ul> <p>令和7年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月、9月、12月に開催（2月にも開催予定）</li> <li>・5月、7月、10月、12月はミーティングを行い前回の振り返り、次回の準備や情報共有を行った。</li> <li>・10月に開催された谷津圏域の認知症サポーター交流会にて、にこにこローズカフェの代表が活動について報告した。</li> </ul>
---

### 4 活動内容

<p>認知症カフェ 「にこにこローズカフェ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェは年4回開催。カフェの前後の月は振り返りやカフェの準備を行いながら参加されたご本人や家族の反応を共有し参加者に楽しんでもらえるカフェをみんなで目指している。</li> </ul> <p>認知症の啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みにはカフェのメンバーでもあるUR コミュニティのアドバイザー企画のキッズ向けのサポーター養成講座を開催。キャラバン・メイトは認知症サポーター養成講座の講師としても活躍。</li> <li>・地域の商店街の秋祭りでは、こども向けの啓発活動で使う折り紙を地域の高齢者と一緒に作成。</li> </ul>
<p><b>認知症カフェ</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>